

株式会社 C I S 環境経営レポート

活動期間 2022年10月1日～2023年9月30日

発行日 2024年6月1日

第15版



目次

1.	御挨拶・C I Sの理念	3
2.	C I Sの沿革	4
3.	会社概要	5
4.	環境に対する基本理念・環境方針	6
5.	対象範囲・環境管理体制	7
6.	環境目標と実績	8
7.	主要な環境活動計画の内容・取組の評価	11
8.	代表者による評価と見直し	15

ご挨拶

生活習慣の変化に起因する疾患の増加や高齢化の進行に伴い、健康に対する生活者の意識が高まりを見せる今日、病気を未然に防ぎ、健やかな体を維持するため「予防医学」の重要性が再認識されています。

個人や企業で受診する健康診断や人間ドックなども、病気を早期に発見・治療するための効果的な手段のひとつ。近年、高度化・多様化する臨床検査の技術は医療の現場で重要な役割を担っています。

弊社では、臨床検査業務を主軸に、食品衛生検査や環境検査、調剤薬局業務などの幅広い分野で、さまざまなニーズにお応えしながら地域医療や、生活者のみなさまの健やかな暮らしを支えてまいりました。

最新の知識と技術を駆使し、速やかな対応と高度な精度でみなさまのご要望にお応えするそれがわたしたちの使命です。

これからも人と地域の健康応援団として社員一同研鑽を重ねてまいります。

代表取締役 吉本 二三浩

C I Sの理念

常に科学的根拠に基づいた最新の医療検査技術情報を提供することによって地域医療に貢献できるように努力します。

ユーザーの信頼される地域リーダーたる医学検査分析室として24時間緊急検査も対応できる体制作りをします。

誠実な組織活動で豊かな経営資源を育て永続的に社会貢献できる企業体を目指します。

沿革

- 平成18年10月 株式会社 CIS設立
- 平成21年 9月 株式会社ピー・シー・エルから南九州地区の営業権の譲渡を受け
登録衛生検査所開設 人吉・熊本・鹿児島研究所、八代営業所開設
- 平成21年10月 新たに取締役2名就任
- 平成21年11月 本社人吉市西間上町2556-1より人吉市西間下町93-1に移転
- 平成21年12月 資本金を500万円に増資
- 平成24年 3月 資本金を1,000万円に増資
- 平成24年 6月 本社を現在地（人吉研究所内）に移転
- 平成24年 6月 熊本研究所を熊本市錦ヶ丘に移転
- 平成27年 9月 鹿児島研究所新築移転
- 平成28年 5月 熊本本社・熊本中央研究所を熊本市東区東京塚町新築移転
- 平成29年 3月 八代研究所を八代市錦町に移転
- 平成30年 4月 福岡営業所開 **（現在、閉所）**
- 平成30年 5月 玉名研究所開設

会社概要

(1) 事業所名及び代表者名
株式会社 C I S
代表取締役 吉本 二三浩

(2) 所在地（対象事業所）

熊本中央研究所
〒862-0923 熊本市東区東京塚町18-44

人吉研究所
〒868-0041 熊本県人吉市七地町901-3

鹿児島研究所
〒899-4352 鹿児島県霧島市国分向花156-2

八代研究所
〒866-0834 熊本県八代市錦町13-1

玉名研究所
〒869-0238 熊本県玉名市岱明町開田415-20

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者氏名・連絡先
環境管理責任者 漆野 智康
E A 2 1 事務局 竹田 浩治
T E L : 0 9 6 6 - 2 4 - 8 1 2 7
F A X : 0 9 6 6 - 2 4 - 3 4 2 3

(4) 事業内容（認証登録範囲）
臨床検査及び環境検査サービス事業
（衛生検査所許可番号）
人吉研究所 熊本県登録第60号
熊本中央研究所 熊本市登録第33033号
鹿児島研究所 鹿児島県登録第68号

八代研究所 熊本県登録第64号
玉名研究所 熊本県登録第65号

(5) 事業規模
【2022年度実績】

従業員（パート含む） 98名
延べ床面積 1201.1㎡

環境理念

(株)C I Sは人々の健康管理と地域医療への貢献に努めるなかで、地球環境の保全が重要な課題であることを認識し、地球温暖化防止や資源の有効活用を常に配慮した事業活動を行い継続的に改善していきます。

環境方針

私たちは、基本理念のもと社員一体となり以下の環境保全活動に取り組んでいきます。

- (1) 地球温暖化防止のため、電力・ガス・ガソリン等の節減を行いC O 2削減に努めます。
- (2) 資源の有効活用に努め、ミスコピーの撲滅・社内での両面活用等を推進します。
- (3) 一般廃棄物の減量・分別・リサイクルを推進します。
- (4) 産業廃棄物の分別・管理を徹底し、適正処理に努めます。
- (5) 水使用量の削減に努め、総排水量の低減を推進します。
- (6) グリーン購入を推進します。
- (7) 化学物質の削減及び適正管理に努めます。
- (8) 社内外の定期的な清掃活動を行い、環境の美化に努めます。
- (9) 環境保全に関連する法規、条例を遵守します。
- (10) 環境方針を全社員で周知・徹底し、環境教育の充実を図っていきます。

平成 22 年 10 月 1 日

株式会社 C I S

取締役専務

泰野 智康

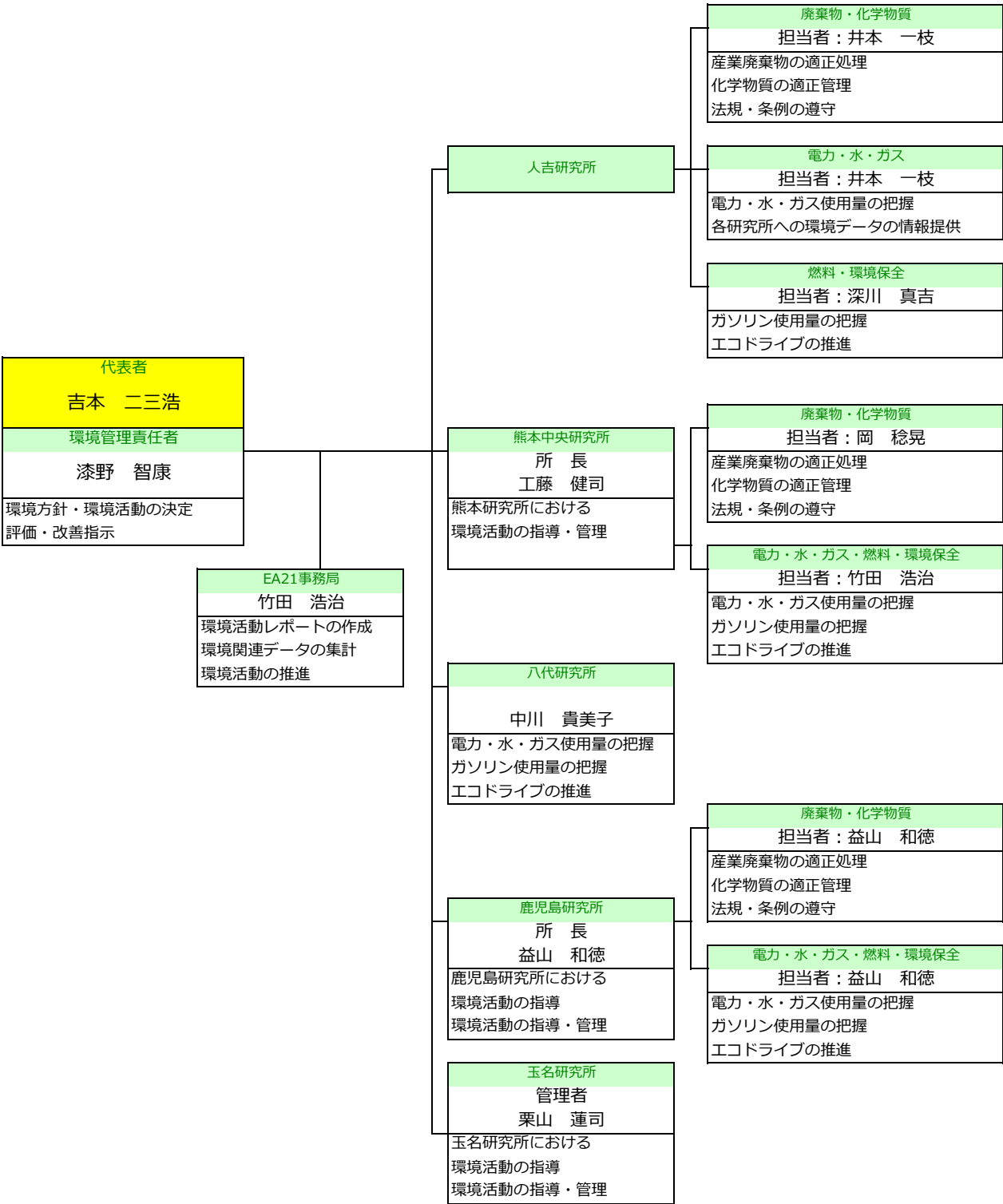
対象範囲

- (1) 対象範囲（認証・登録範囲）

本社及び全ての研究所・営業所

対象範囲・環境管理体制図

環境管理体制図(2024年1月現在)



○各施設・部署の責任者・担当者を中心として活動取組を実施します

環境目標と実績（今後5年間の目標値）

削減目標に関しては、2020年度を新たな基準とし、基準年度実績より毎年1%、5年後(2025年度)に5%の削減を目指します。

項 目		2020年度 2020.10～2021.9 基準年度	2021年度 2021.10～2022.9 通年目標 1%削減	2022年度 2022.10～2023.9 通年目標 2%削減	2023年度 2023.10～2024.9 通年目標 3%削減	2024年度 2024.10～2025.9 通年目標 4%削減	2025年度 2025.10～2026.9 通年目標 5%削減
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量の削減 kWh	326879	323610	320341	317073	313804	310535
	ガソリン使用量の削減 L	78557	77771	76986	76200	75415	74629
	液化石油ガス使用量の削減 (LPG)	145	144	142	141	139	138
廃棄物の削減と適正処理 Kg	一般廃棄物 特別管理産業廃棄物 産業廃棄物 合計	7186 100860 108046	7114 99851 106966	7042 98843 105885	6970 97834 104805	6899 96826 103724	6827 95817 102644
処理	産業廃棄物 化学物質	適正処理 適正管理	適正処理 適正管理	適正処理 適正管理	適正処理 適正管理	適正処理 適正管理	適正処理 適正管理
水使用量の削減 m³		3175	3143	3112	3080	3048	3016
グリーン購入の推進		特になし	計画の推進	計画の推進	計画の推進	計画の推進	計画の推進
(環境保全・地域貢献等)		特になし	エコドライブの実践 講習会の開催 緊急訓練 地域清掃活動	エコドライブの実践 講習会の開催 緊急訓練 地域清掃活動	エコドライブの実践 講習会の開催 緊急訓練 地域清掃活動	エコドライブの実践 講習会の開催 緊急訓練 地域清掃活動	エコドライブの実践 講習会の開催 緊急訓練 地域清掃活動
業務関連			認証取得の準備 ・ ISO15189 ・ 熊本県SDG s ・ プライム企業	認証の維持・改善 ・ ISO15189 ・ 熊本県SDG s ・ プライム企業	認証の維持・改善 ・ ISO15189 ・ 熊本県SDG s ・ プライム企業	認証の維持・改善 ・ ISO15189 ・ 熊本県SDG s ・ プライム企業	認証の維持・改善 ・ ISO15189 ・ 熊本県SDG s ・ プライム企業
			生活環境に係る 検査項目の増加 ・ 腸内細菌検査 ・ 水質検査	生活環境に係る 検査項目の増加 ・ 腸内細菌検査 ・ 水質検査	生活環境に係る 検査項目の増加 ・ 腸内細菌検査 ・ 水質検査	生活環境に係る 検査項目の増加 ・ 腸内細菌検査 ・ 水質検査	生活環境に係る 検査項目の増加 ・ 腸内細菌検査 ・ 水質検査

環境経営目標と実績（今年度の活動実績）

※二酸化炭素排出量の削減については、2022年度九州電力株式会社 実排出係数0.407(Kg-CO2/kWh) 使用

【全事業所】

項 目		基準年度 2020年度 通年実績	2022年度 通年目標 5%削減	2022年度 実績	取組結果 目標対比 の達成率
二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電力使用量の削減 kWh	326,879	320,341	466,548	68.7%
	CO2換算 (Kg-CO2)	156,902	153,764	189,885	
	ガソリン使用量の削減 L	78,557	76,986	70,875	108.6%
	CO2換算 (Kg-CO2)	182,252	178,607	164,430	
	液化石油ガス使用量の削減 (LPG) CO2換算 (Kg-CO2)	145 435	142 426	112 336	126.9%
	CO2換算 (Kg-CO2)の合計値	339,589	332,797	354,651	93.8%
廃棄物の適正処理 Kg		108,046	105,885	114,044	92.8%
産業廃棄物 化学物質		適正処理(受託した検体を廃棄するため) 適正管理			
水使用量の削減 m ³		3,175	3,112	3,319	93.7%
グリーン購入の推進		特になし	計画の推進	計画の推進	100%
(環境保全・地域貢献等)		特になし	エコドライブの実践 講習会の開催 計画の推進	エコドライブの実践 地域清掃活動実施 (第3金曜日)	100%

【事業所毎実績値】

事 業 所	年 度	電 気 (KWh)	ガソリン (L)	LPGガス (m ³)
人吉研究所	前年度	89,809	26,258	56
	今年度	63,317	23,634	26
熊本中央研究所	前年度	227,295	24,098	28
	今年度	316,738	22,684	84
鹿児島研究所	前年度	49,693	20,155	6
	今年度	41,108	18,840	2
八代研究所	前年度	17,131	3,793	0
	今年度	17,454	2,798	0
玉名研究所	前年度	32,008	3,098	0
	今年度	27,931	2,919	0
今年度合計値		466,548	70,875	112

主な環境活動計画の内容

平成25年度より、以下の内容に関して年2回、各事業所でチェックします。
評価基準：○（実行できた）、△（あまり実行できなかった）、×（実行していない）

□把握・管理手順

毎月本社にてエネルギー消費量をチェックし各営業所へ前年対比形式の資料を提供します。
化学物質等に関しては各営業所にて施設可能な試薬庫に保管し、適正管理を維持します。
廃棄物に関しては、各法規等に従い、産廃業者へ依頼し適正に処理します。
年に一度、環境保全に関連する法規・条例・社内規定の順守状況をチェックします。

○電力量の削減

・空調の使用 空調使用時の室内温度を夏28度以上、冬20度以下に統一します。 ※但し検査室等の空調管理が必要なエリアに関しては機器毎の適正な温度管理を実施するため除外します。 エアコンのフィルター清掃を定期的の実施し、機器の性能を維持します。退社時に空調の消し忘れがないか確認します。	評価 ○
・電灯 不在時は消灯します。 ※但し検査室等の機器に関しては適正な状態を維持するために除外します。退社時に電灯の消し忘れがないか確認します。	○
・OA機器 自動省エネモードを活用します。 使用しない時はディスプレイをOFFにします。 退社時には電源がOFFになっているか確認します。 ※但しサーバー等の機器を除外します。 コピー機等の未使用時は常時節電モードにします。 製品買換えの際は省エネタイプを選択します。	○

○ガソリン使用量の削減

・エコドライブの推進 財団法人省エネルギーセンター「エコドライブ10のすすめ」を参照しガソリン消費量の削減に努めます。	評価 ○
・定期的な車両のコンディションの確認 車両ごとに車両管理台帳を記載し、車両の異常チェックを実施します。 タイヤの空気圧のチェック、オイル交換エレメント交換を実施し適正な状態を維持します。	○
・車両の軽量化 不要な荷物は業務終了後に降ろします。	○

○ガス使用量の削減

検査等で必要な際のみ使用し、火力の調整に注意します。	評価 ○
----------------------------	---------

○廃棄物の削減

・一般廃棄物の削減 コピー用紙を両面活用します。社内業務用紙は裏紙使用を推進します。Eメール・ドロッポボックス等の活用を推進します。 推進します。Eメール・ドロッポボックス等の活用を推進します。 特殊コピーの後はリセットを徹底し、ミスコピーを撲滅します。	評価 ○
・産業廃棄物の管理 マニフェストを管理し、適正な管理を維持します。	

○水使用量の削減

節水の表示をします。 手洗い・洗い物等で使用する際は、水を出したままにしないようにします。使用後は止水を確認します。	評価 ○
---	---------

○化学物質の管理

試薬庫の施設。試薬管理。	評価 ○
--------------	---------

○エコ活動・地域社会貢献の推進

環境活動推進の勉強会を社内で行います。 毎月の一斉清掃日を設定（第3金曜日）し、責任者の指示のもと地域清掃を各事業所で実施します。	評価 ○
--	---------

○環境保全に関連する法規・条例の遵守

環境関連法規・条例・社内規定を順守します・ 環境方針を全社員で周知徹底し、環境教育の充実を図ります	評価 ○
--	---------

○業務の効率化

オンラインでの依頼・結果連携を推進し業務効率化を図る。 新規の検査項目を導入し、地域医療に貢献する。	評価 ○
---	---------

取組結果と評価

二酸化炭素排出量削減について

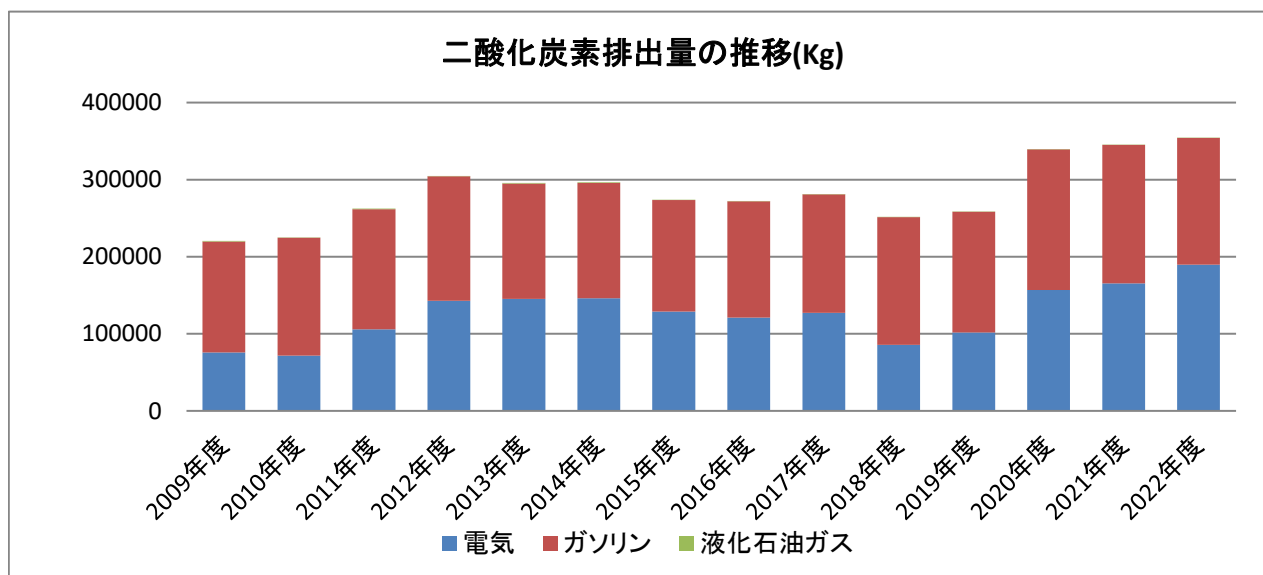
今年度の取り組みとしては、環境目標に対し93.8%の達成率となり、排出量の削減につきましては未達成となりました。

基準年度（2020年度）からの変化として、検査機器の新規導入、業務量の増加等が要因となり、排出量が増加しております。

内訳は、電力使用量とガス使用量は増加、ガソリンの使用量は減少しており、電力とガス使用量の増加が二酸化炭素排出量増加の要因となっております。

	電力 (kWh)	ガソリン (L)	ガス (Kg)	CO2排出量 (kg-CO2)
2021年度	415936	77402	90	345,385
2022年度	466548	70875	112	354,651

排出量の推移



資源の有効利用、ミスコピーの撲滅、紙の両面活用について

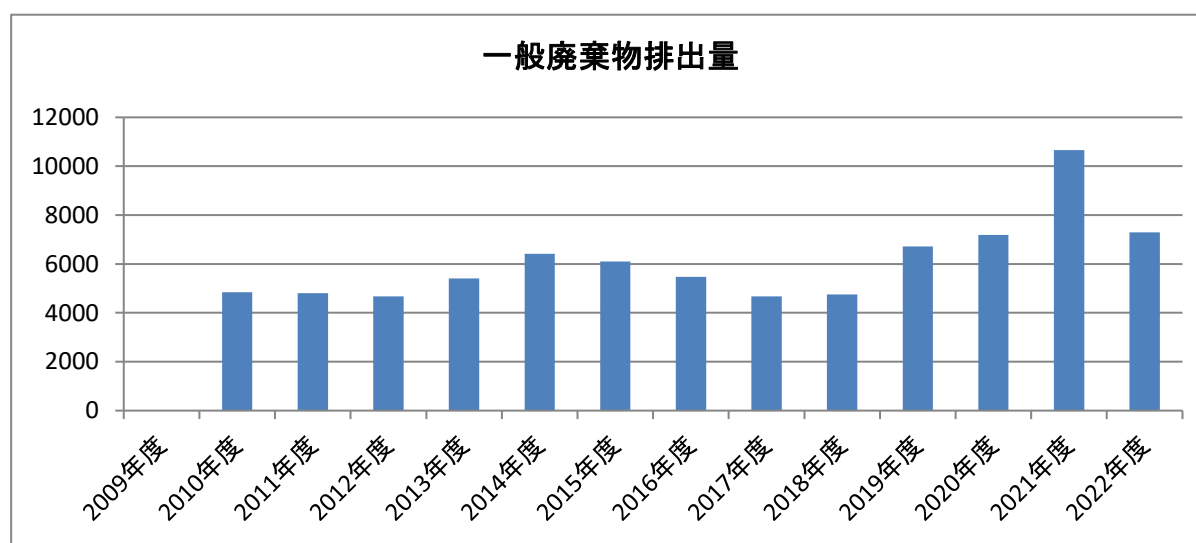
社内文書・メモ紙等に関しては、個人情報の保護を遵守しつつ、継続して両面活用による紙の再利用、裏紙のメモ紙利用を実施しています。

個人情報の記載がある用紙に関しては、再利用を禁止しています。

Eメール活用、クラウドでのデータ共有を推進し紙使用の削減を目指します。

依頼元との連携について、オンラインでの検査連携システム（CIS-DLSYS）の導入を継続して推進し、新規顧客の獲得と業務の効率化を目指します。

一般廃棄物の減量・分別・リサイクルについて



廃棄物の削減については、目標に対して92.8%の達成率となっており未達成となりましたが、排出量は前年度と比較し31%削減となりました。

(前年度排出量10,654Kg 今年度排出量7,294Kg)

産業廃棄物の分別・管理について

●産業廃棄物の分類・管理

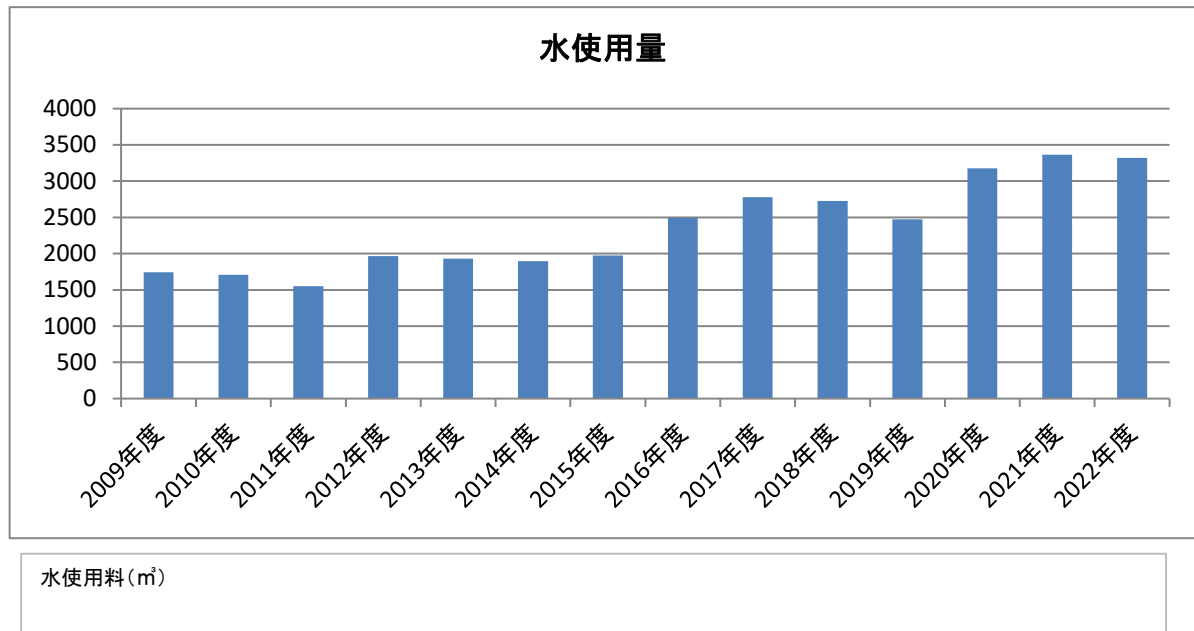
適正に管理されています。継続して維持します。

水使用量の削減について

水使用量につきましては、前年度対比1%の使用量削減、目標達成率93.7%となりました。

検査目的以外の水使用量を極力削減し、使用量を減少させるよう

活動を継続します。



グリーン購入の推進について

グリーン購入に関しましては、前年度7.0%から今年度45.1%と増加しました。

今後も継続して比率の増加に努めます。

化学物質の管理について

●化学物質の削減及び管理

適正に管理されています。継続して維持します。

環境の美化・清掃活動について

衛生的な職場環境の維持に努め、地域の清掃活動にも積極的に参加できるよう活動を推進します。

環境法規等の遵守状況

該当する環境関連法規等のチェックリストを確認した結果、環境関連法規等の違反・訴訟はありませんでした。

No	法規等の名称	要求事項	適用施設等	届出・許可等	記録・書類等	遵守評価記録		
						評価	担当者	備考
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律 及び 自社規程(産業廃棄物処理規定)	・許可業者に委託(一廃は許可証確認、産廃は契約) ・マニフェスト発行・返送遅延時の届出 ・マニフェスト交付状況の報告 ・保管基準の遵守(表示・管理保管場所等)	廃棄物置場		契約書 産業廃棄物管理票(マニフェスト) 自社規程(産業廃棄物処理規定)	☒ 適 ☐ 不適	栗山 蓮司	詳細は規定による
2	下水道法	下水道への下水の排出				☒ 適 ☐ 不適		
3	浄化槽法	・浄化槽による尿、雑排水の処理 ・設置の届出 ・設置後の水質検査 ・保守点検及び清掃、定期検査 ・廃止の届出	浄化槽	設置の届出 廃止の届出	設置届出書 水質検査記録 保守点検・清掃及び定期検査の記録 廃止届出書	—		
4	毒物及び劇物取締法	・毒物または劇物の取扱 ・廃棄 ・盗難防止(施錠)	保管庫		毒物及び劇物譲受書 製品安全性データシート	☒ 適 ☐ 不適		適正に管理
5	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(グリーン購入法)	・環境物品の購入に努める	用紙、文具、オフィス家具、OA機器、家電製品、照明器具、自動車等			☒ 適 ☐ 不適		
6	特定家庭機器再商品化法(家電リサイクル法)	・廃棄時の引渡し、料金の支払い	エアコン、テレビ、電気冷蔵庫、電気冷凍庫		管理表	—		
7	使用済自動車の再資源化等に関する法律(自動車リサイクル法)	・使用済自動車の引渡し ・再資源化等預託金の預託	自動車		引取証明書等	☒ 適 ☐ 不適		事業本部にて管理
8	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(フロン排出抑制法)	・業務用エアコン室外機の定期点検 ・廃棄時の適正業者への引渡し ・引取証明書(写し)の受領・確認・保管	業務用エアコン室外機 エアコン、自動車		定期点検表 引取証明書(写し)	☒ 適 ☐ 不適		同上

関連当局からの違反などの指摘、地域からの苦情もありません。

遵守状況確認 2024年 1月

環境方針の周知徹底・教育について

エコ活動の活性化のために、SDGs・エコドライブ・省エネの勉強会等を実施し今後も継続して活動します。

品質保証等の取り組みについて

ISO15189（2023年12月22日登録）※熊本中央研究所

熊本県SDGs登録事業者（2023年9月7日登録）

代表者による評価と見直し

全体の評価

新型コロナウイルスの影響が社外、社内ともに薄れていき落ち着いた環境の中で業務を行うことができています。社員数、検査機器の増加で使用電力量は増加してきているのは仕方ないことだと考えます。今後も電気の使い方について啓蒙活動を行ってください。

また車両数も増加しているなか、ガソリン使用量が減少しているのは、燃費の良い車両に変更していることと使用者にエコドライブの意識が浸透している証だと思います。

CISはSDG s の認定を受けており、またISO15189も取得した。この2つの取り組みはエコアクション21の活動に通じるところもあるので、社員全員で環境活動に励んでもらうようお願いします。

環境方針

変更の必要性： 要検討

*SDG s、ISOの要求事項も盛り込んだ環境方針の検討。

環境目標・内容

変更の必要性： なし

環境経営システムの各要素

変更の必要性： なし

2024年 6月 7日

株式会社CIS 環境管理責任者

漆野 智康